

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2017.6.9

No.445



### 平成 29 年夏のボーナス調査

#### —レポートの概要—

- 平成 29 年夏のボーナス支給見込額は、平均で昨年夏の実績を 4 千円上回る 37 万 2 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 49 万 6 千円となった。今夏のボーナスの伸び(見込み)は、昨年夏に比べ、「良くなる」割合が 0.3 ポイント減少、「悪くなる」が 0.3 ポイント減少し、期待指数は横ばいの 48.5 となった。
- ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 40.1%、「貯蓄」割合が 45.4%、「返済」割合が 14.5%となった。昨年夏に比べ「消費」、「返済」割合が減少し、「貯蓄」割合は増加した。  
「貯蓄」の目的をみると、昨年、一昨年夏と同様、上位 3 位は「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」の順となった。
- 最近の暮らし向き調査では、28 年冬に比べ「良くなった」とする割合が 0.7 ポイント増加、「悪くなった」とする割合は 1.1 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 47.3 となり 0.9 ポイント上昇した。暮らし向き指数は緩やかながら改善の動きが続いている。

# 1. 平成29年夏のボーナス調査

## (1) ボーナス受給見込額

—平均37万2千円、昨年夏の実績を4千円上回る—

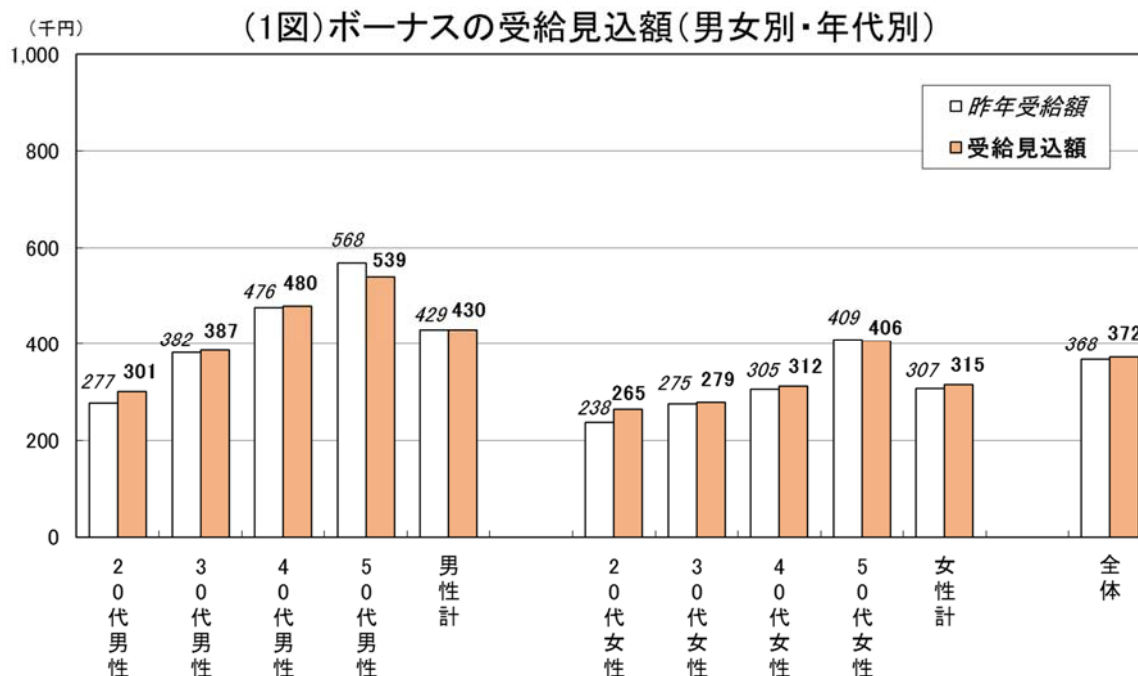
県内給与所得者に昨年夏のボーナス受給額と今夏のボーナス受給見込額を尋ねたところ、受給見込額は平均で37万2千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均36万8千円)を4千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは50代男性の53万9千円で、次いで40代男性の48万円、50代女性の40万6千円、30代男性の38万7千円などの順となった。

男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が43万円、女性は31万5千円と、

男性が女性を11万5千円上回った。

年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、20代、30代、40代は男性、女性ともに見込額が受給実績を上回った。一方、50代は男性、女性ともに下回る見込みとなっている。その差額をみると、全体的に小幅であったが、20代男性(2万4千円上回る)、20代女性(2万7千円上回る)、50代男性(2万9千円下回る)の開きの大きさが目立った。

(以上、1図参照)



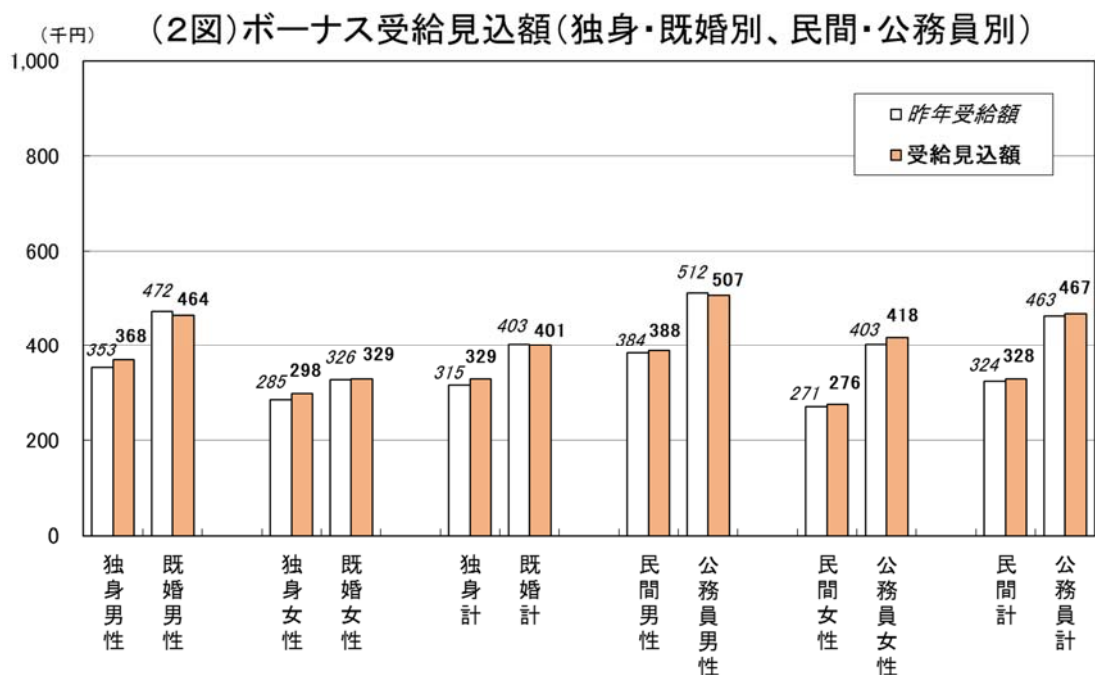
※本文、グラフの「20代」は20歳未満、「50代」は60歳以上を含む、以下同様

次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が32万9千円、既婚者が40万1千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が1万4千円上回り、既婚者は2千円下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を1万5千円、女性は1万3千円上回った。

一方、既婚者は男性が8千円下回り、女性は3千円上回った。

民間・公務員別でみると、民間が32万8千円、公務員が46万7千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間、公務員ともに4千円上回ると見込んでいる。

(以上、2図参照)



## (2) ボーナスの希望額

—ボーナス希望額は平均 49 万 6 千円—

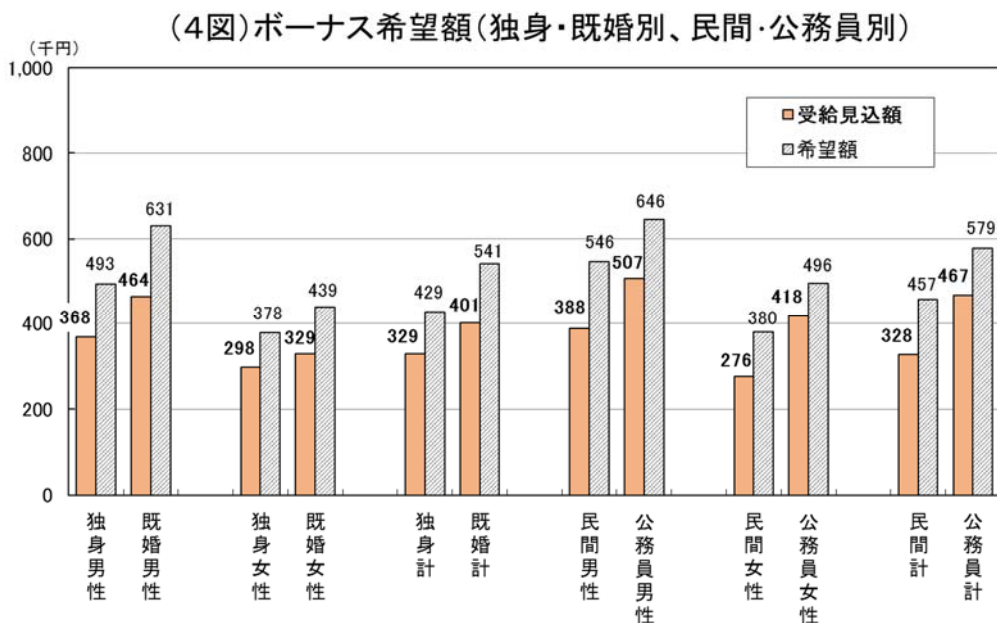
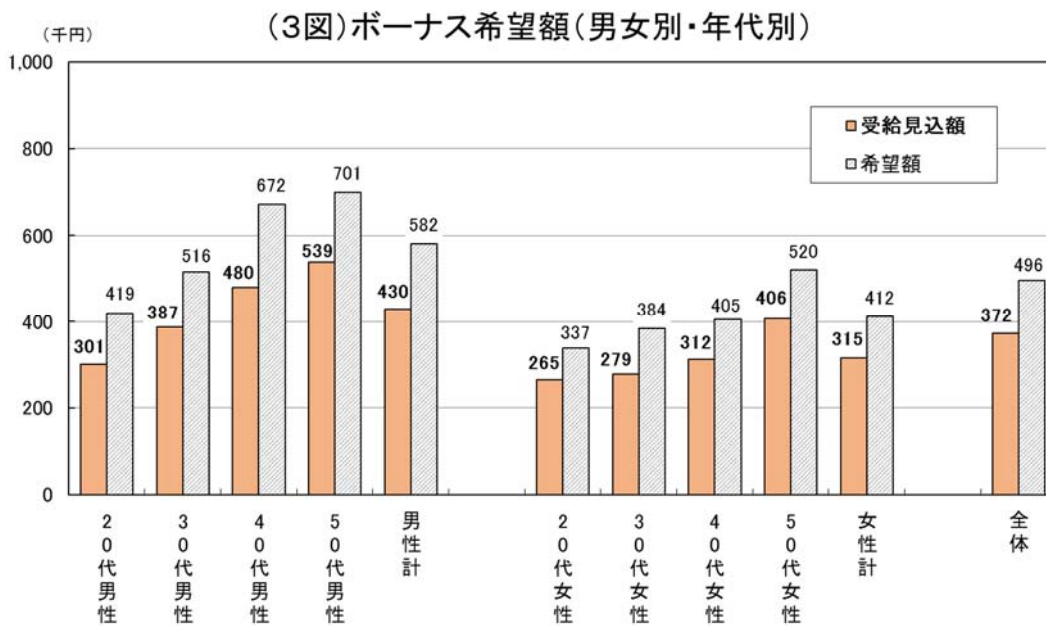
今夏のボーナス希望額は全体の平均で 49 万 6 千円となり、受給見込額 37 万 2 千円と 12 万 4 千円の開きがみられた。

平均希望額を男女別・年代別にみると、男性が 58 万 2 千円、女性は 41 万 2 千円となった。最も多かったのは 50 代男性であり、次いで 40 代男性、50 代女性などの順となった。

希望額と受給見込額との開きを男女別にみると、男性が 15 万 2 千円、女性は 9 万 7 千円となった。

なお、独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きく、民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

(以上、3、4 図参照)



### (3) ボーナスの伸びについて

—期待指数 48.5、昨年夏と同水準—

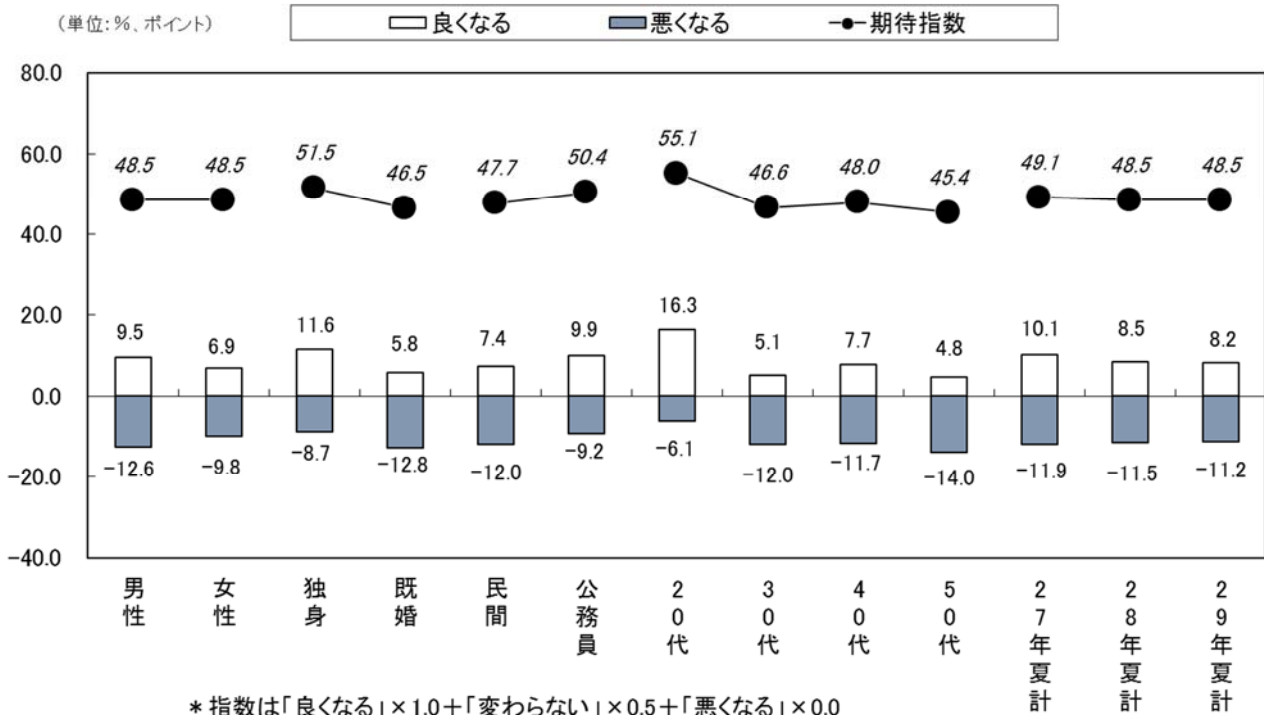
今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の8.2%、「悪くなる」が11.2%、「変わらない」が80.6%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は48.5となった。

昨年夏に比べ、「良くなる」が0.3ポイント減少、「悪くなる」が0.3ポイント減少し、期待指数は横ばいとなった。

属性別にみると、30代以上では「悪くなる」の割合が「良くなる」を上回っている。一方、20代、独身は「良くなる」が「悪くなる」を上回っており、若年層の伸びが目立っている。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



#### (4) ボーナスの使途計画

— 「消費」、「返済」割合が減少、「貯蓄」割合は増加—

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が40.1%、「貯蓄」割合が45.4%、「返済」割合が14.5%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が0.3ポイント減少、「返済」割合が1.2ポイント減少し、「貯蓄」割合は1.5ポイント増加した。

属性別にみると、男女別では女性が「消費」、「貯蓄」割合、男性は「返済」割合が高かった。独身・既婚別では独身者が「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「消費」、「貯蓄」割合、公務員は「返

済」割合が高かった。

年代別にみると、「消費」割合は20代が43.5%で最も高く、最も低い30代の37.1%と6.4ポイントの開きがみられた。

「貯蓄」割合は30代が50.0%で最も高かった。「返済」割合は40代が17.6%、50代が17.4%とともに高い割合となった。

「返済」の内訳をみると、自動車ローンは20代、住宅ローンは40代、50代の割合が高かった。

(以上、1表、6図参照)

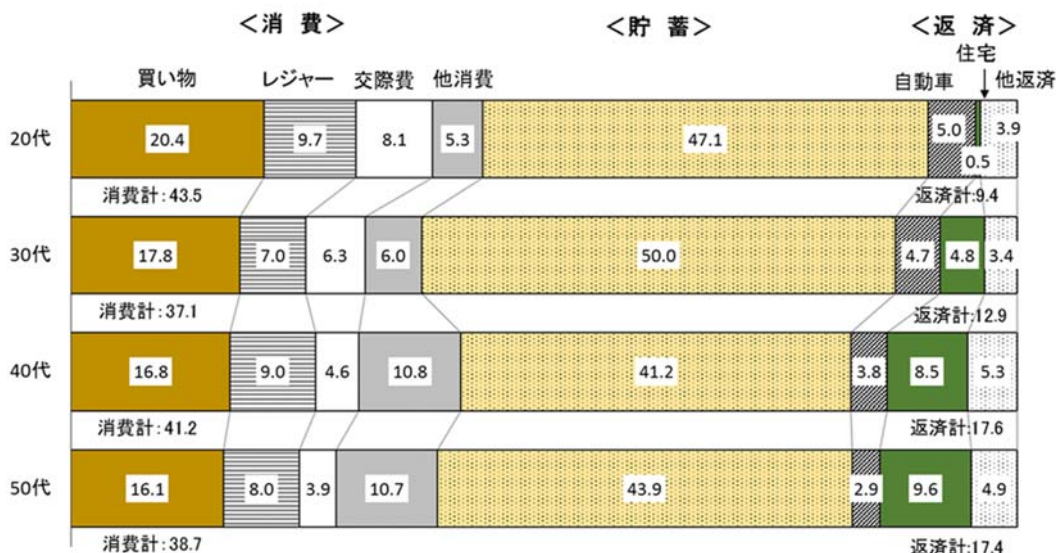
(1表) ボーナスの使途計画

(単位:%)

|       | 消費割合 |      |     |     |     | 貯蓄割合 | 返済割合 |     |     |     |
|-------|------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|
|       | 買い物  | レジャー | 交際費 | その他 | 自動車 |      | 住宅   | その他 |     |     |
| 男性    | 39.4 | 16.5 | 8.5 | 5.7 | 8.7 | 44.2 | 16.4 | 4.7 | 8.0 | 3.7 |
| 女性    | 40.8 | 18.8 | 8.4 | 5.5 | 8.1 | 46.5 | 12.7 | 3.5 | 4.3 | 4.9 |
| 独身者   | 43.3 | 20.8 | 8.5 | 7.1 | 6.9 | 46.4 | 10.3 | 4.5 | 1.9 | 3.9 |
| 既婚者   | 37.9 | 15.5 | 8.4 | 4.6 | 9.4 | 44.7 | 17.4 | 3.8 | 9.0 | 4.6 |
| 民間    | 40.8 | 18.4 | 8.4 | 5.5 | 8.5 | 45.6 | 13.6 | 3.9 | 5.1 | 4.6 |
| 公務員   | 38.4 | 16.1 | 8.4 | 5.9 | 8.0 | 44.8 | 16.8 | 4.5 | 8.3 | 4.0 |
| 29年夏計 | 40.1 | 17.7 | 8.4 | 5.6 | 8.4 | 45.4 | 14.5 | 4.1 | 6.1 | 4.3 |
| 28年夏計 | 40.4 | 16.7 | 8.7 | 5.9 | 9.1 | 43.9 | 15.7 | 5.1 | 5.8 | 4.8 |
| 27年夏計 | 37.3 | 15.6 | 8.6 | 4.9 | 8.2 | 46.2 | 16.5 | 4.2 | 7.0 | 5.3 |

(6図) 年代別ボーナスの使途計画

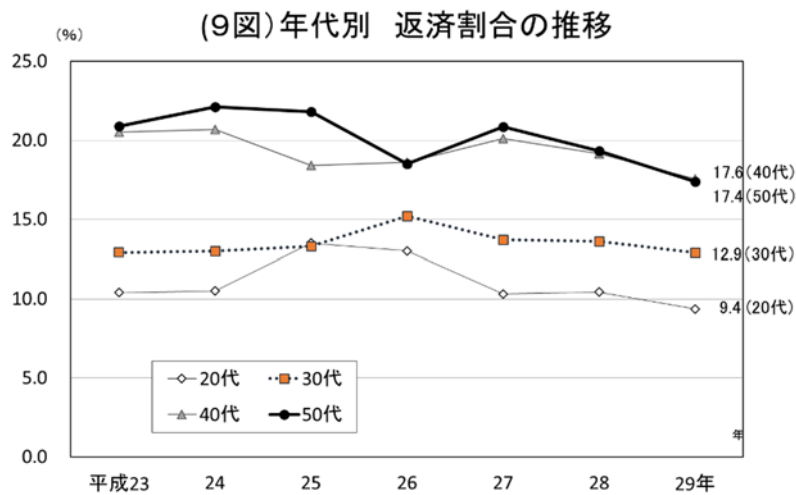
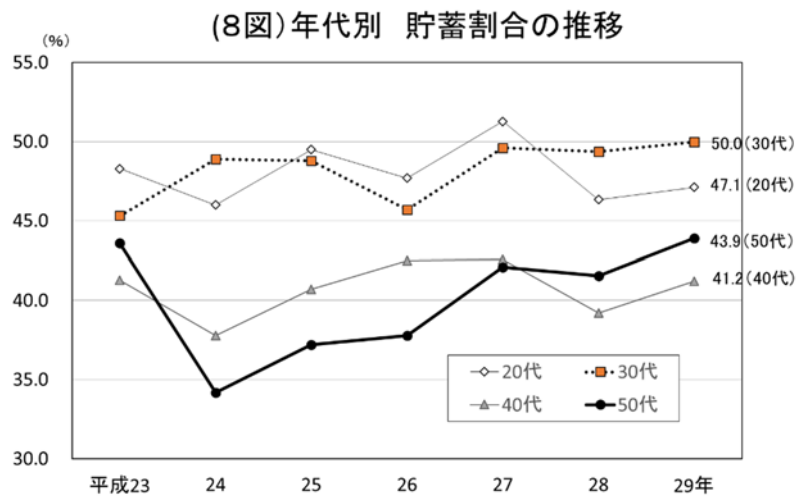
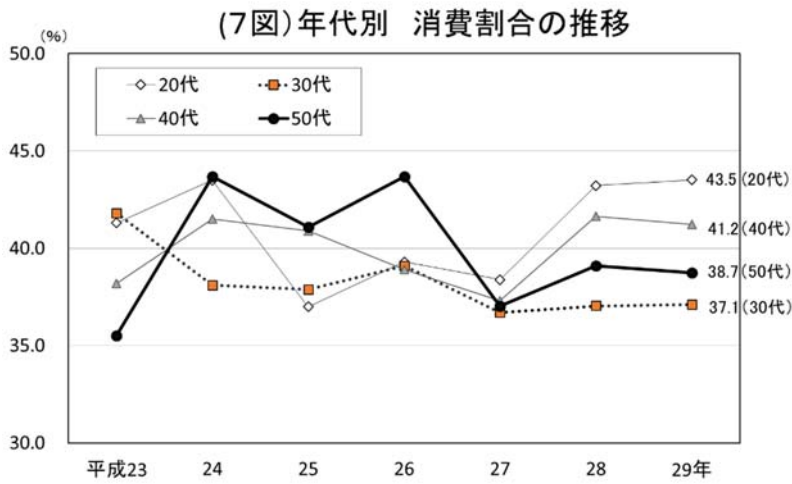
(単位:%)



夏のボーナスの使途計画についてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成29年は昨年夏に比べ全体に各項目、各属性とも小幅な変化にとどまった。「消費」割合は20代、30代で増加、40代、50代

で減少した「貯蓄」割合は全ての年代で増加がみられた。「返済」割合は全ての年代で減少した。

(以上、7、8、9図参照)



## (5) 貯蓄の目的

—「安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位—

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が36.2%で最も高く、以下「老後の備え」が36.0%、「教育」が29.2%などと続いた。昨年、一昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであった。「安心だから」が昨年夏に比べ4.1ポイント減少し、「老後の備え」は0.1ポイント、「教育」は1.1ポイントそれぞれ増加した。また、「旅行」は1.8ポイント増加した。

男女別にみると、男性は「住宅」、「耐久消費財」の割合が女性に比べ高かった。一方、女性は「老後の備え」がトップとなった。また、「病気の備え」、「旅行」が男性を上回った。

独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が約5割となり、「旅行」が3位となった。一方、既婚者は「教育」、「老後の備え」の割合が高く、ともに4割を超えた。

(以上、2表参照)

## (2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

|        | 男性       | 女性       | 独身       | 既婚       | 29年夏計    | 28年夏計    | 27年夏計    |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 住 宅    | 16.8     | 10.3     | 8.0      | 17.4     | 13.5     | 14.2     | 13.3     |
| 教 育    | (3) 30.7 | (3) 27.8 | 6.1      | (1) 45.6 | (3) 29.2 | (3) 28.1 | (3) 30.8 |
| 結 婚    | 9.8      | 6.5      | 19.3     | 0.2      | 8.1      | 8.7      | 8.4      |
| 旅 行    | 19.8     | 25.3     | (3) 24.8 | 21.0     | 22.6     | 20.8     | 24.0     |
| 耐久性消費財 | 11.9     | 9.8      | 9.2      | 11.9     | 10.8     | 10.9     | 12.3     |
| 病気の備え  | 9.8      | 16.3     | 11.3     | 14.3     | 13.1     | 12.5     | 13.6     |
| 老後の備え  | (2) 32.7 | (1) 39.1 | (2) 28.2 | (2) 41.4 | (2) 36.0 | (2) 35.9 | (2) 36.2 |
| 安心だから  | (1) 35.8 | (2) 36.6 | (1) 49.7 | (3) 26.7 | (1) 36.2 | (1) 40.3 | (1) 37.3 |



## 2. 最近の暮らし向き調査

—暮らし向き指数、緩やかながら改善の動きが続く—

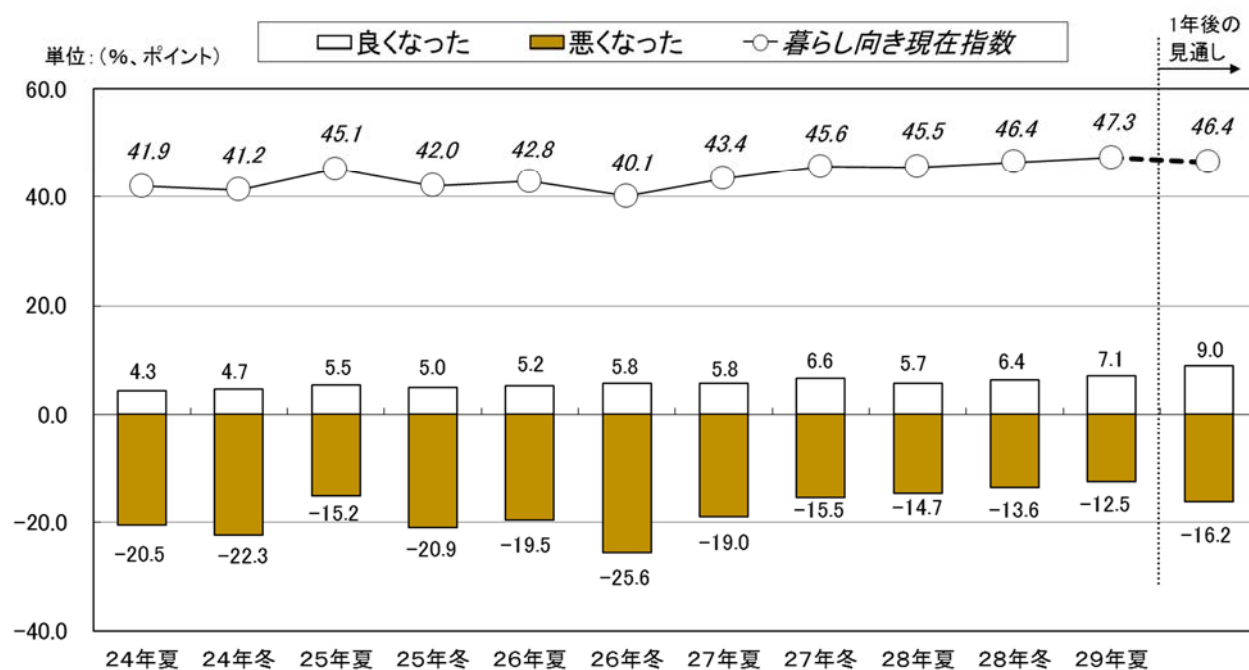
まず、「昨年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、28年冬に比べ「良くなった」とする回答が0.7ポイント増加の7.1%、「悪くなった」は1.1ポイント減少の12.5%、「変わらない」が0.4ポイント増加の80.4%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」

(3表、注記参照)は47.3と、28年冬に比べ0.9ポイント上昇した。

「暮らし向き指数」は11期(半期毎)連続で40.0を超えた。全体としては力強い上向き感には欠けるものの、緩やかながら改善の動きが続いている。

(以上、10図参照)

(10図)暮らし向き指数の推移



男女別、年代別など各属性をみると、20代は「良くなった」の割合が10%を超え、「悪くなった」を上回った。他の属性は「悪くなった」が「良くなった」を上回っているが、割合はこのところ全体に減少傾向にある。

次に「1年後の暮らし向きはどうかと考えますか」との問いに対しては、「今後良くなる」が9.0%、「今後悪くなる」が16.2%、「変わらない」が74.8%となった。この結果、暮らし向きの「今後指数」は

「現在指数」を0.9ポイント下回る46.4と、幾分ではあるが低下する見通しとなっている。

年代別にみると、50代は「悪くなる」の大幅な増加から今後指数が低下し、厳しさが増す見通しである。一方、20代、30代は「良くなる」の増加から「今後指数」が上昇しており、若年層においては暮らし向き改善への期待感がうかがわれる。

(以上、3表参照)

(3表)現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位:%.ポイント)

|     | 現在 → 今後 |      | 現在 → 今後 |       | 現在 → 今後 |      | 現在 → 今後 |      |
|-----|---------|------|---------|-------|---------|------|---------|------|
|     | 良くなった   | 良くなる | 変わらない   | 変わらない | 悪くなった   | 悪くなる | 指数      | 指数   |
| 男性  | 9.7     | 10.8 | 79.5    | 76.8  | 10.8    | 12.4 | 49.4    | 49.2 |
| 女性  | 4.6     | 7.3  | 81.3    | 72.9  | 14.2    | 19.8 | 45.2    | 43.8 |
| 独身  | 9.2     | 11.8 | 79.5    | 74.2  | 11.3    | 13.9 | 49.0    | 48.9 |
| 既婚  | 5.6     | 7.1  | 81.0    | 75.2  | 13.4    | 17.7 | 46.1    | 44.7 |
| 民間  | 7.1     | 7.8  | 79.4    | 75.1  | 13.5    | 17.1 | 46.8    | 45.4 |
| 公務員 | 7.1     | 11.7 | 82.6    | 74.1  | 10.3    | 14.2 | 48.4    | 48.8 |
| 20代 | 10.1    | 14.1 | 81.3    | 77.3  | 8.6     | 8.6  | 50.8    | 52.8 |
| 30代 | 9.0     | 12.4 | 79.9    | 74.7  | 11.1    | 12.9 | 48.9    | 49.8 |
| 40代 | 5.9     | 6.6  | 79.9    | 77.7  | 14.3    | 15.8 | 45.8    | 45.4 |
| 50代 | 3.9     | 3.9  | 80.8    | 69.4  | 15.3    | 26.6 | 44.3    | 38.6 |
| 全体  | 7.1     | 9.0  | 80.4    | 74.8  | 12.5    | 16.2 | 47.3    | 46.4 |

注) 現在指数=「良くなった」×1.0+「変わらない」×0.5+「悪くなった」×0.0

今後指数=「良くなる」×1.0+「変わらない」×0.5+「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

- 調査対象者 県内在住の男女給与所得者
- 調査時期 平成 29 年 5 月中旬～5 月下旬
- 配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚  
回収枚数 937 枚 (回収率 93.7%)

回答者内訳

(単位:人)

| 属性   | 男性  | 女性  | 合計  |
|------|-----|-----|-----|
| 20代  | 99  | 99  | 198 |
| 30代  | 116 | 119 | 235 |
| 40代  | 121 | 152 | 273 |
| 50代  | 118 | 113 | 231 |
| 独身   | 162 | 220 | 382 |
| 既婚   | 292 | 263 | 555 |
| 民間企業 | 296 | 358 | 654 |
| 公務員  | 158 | 125 | 283 |
| 合計   | 454 | 483 | 937 |

注:20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

※本件に関する照会先

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当:主任研究員 野里和廣

TEL.017-777-1511